

第 19 回世界湖沼会議

テーマ：湖沼を越えて：持続可能な利用に向けて科学・文化・ガバナンスを繋ぐ

2023 年 11 月 7 日－9 日 バラトンフェレド・ハンガリー

バラトン宣言（仮訳）

前文

淡水は人間の健康、幸福、および社会経済の発展に不可欠であり、また生物多様性や人類が依存する多様な生態系サービスを促進する最も重要な自然資源である。しかしながら、地球表面の淡水のわずか 1%しか液体の形で存在しておらず、この 90%以上が湖沼、湿地、および他の静水域に含まれている。また、世界中で水資源を開発し利用する技術力は長い時間をかけて大きく進歩してきたが、それらを管理する能力は、長年の利用と劣化によって増加している淡水需要に追いついていない。例えば、多くの国の淡水政策は分断されており、十分な資金がない、実施活動が遅い、環境目標が部門政策に十分に統合されていないなどの要因により目標が達成されていない。持続可能な淡水管理のアプローチは、多くの持続可能な開発目標（SDGs）における 2030 年までの水関連の行動計画にも影響を与えており、その一例である SDG 6.6 では水関連の生態系の保護と修復を求めている。

国際社会はこの現実を認識し、2022 年 3 月 2 日に行われた第 5 回国連環境総会で持続可能な湖沼管理（SLM）に関する決議を全会一致で採択した。これは世界的な持続可能性のアジェンダに一致している。

さらに、第 19 回世界湖沼会議は、第 3 回世界湖沼会議（ケストハイ・ハンガリー）において取り上げられた、富栄養化、有害物質などの湖沼の劣化問題や再生アプローチ、利害関係者の役割に関する課題を踏まえ、さらにその範囲を拡大し、湖沼流域が提供する広範な生態系サービスを維持するための多くの貴重なツールと概念を提示することを目的としている。

今回の世界湖沼会議は、SLM 決議の採択後、初めて開催される世界規模の湖沼会議であり、気候変動との関連や、世界的に水生・陸生生態系に大きな影響を与えている異常気象（干ばつ、洪水）を含め、持続可能な湖沼管理における重要な課題と目標を明確にし、湖沼流域における統合的な気候変動対策計画策定の必要性を強調する貴重な機会となる。

提言

したがって、第 19 回世界湖沼会議の参加者は、現在と将来の世代にわたる湖沼、その流域、およびその生態系サービスの持続可能な管理を進めるため、SLM 決議に沿って、以下の提言を行う。

具体的な提言

国連総会での「世界湖沼の日」の制定の実現に向けて、先導する各国政府および関連する国内外の非政府組織への支援を加速、強化する。「世界湖沼の日」の制定は、湖沼が人間の淡水需要や生態系の健全性、生物多様性において果たしている重要な役割に対する国際的な注目を集めるのに多大な貢献をする。

一般的な提言

その上で、会議参加者たちは以下の点で努力する重要性について合意した。

- ◆ 湖沼とその流域における評価の協力的なグローバルプログラムを開発する。これは GLAP (Global Lake Assessment Programme) と仮称され、これにより定期的に世界の湖沼の概要が提供され、既存の水全体を対象とした世界的プログラム (World Water Assessment Programme: WWAP、および World Water Quality Assessment: WWQA) を補完できる。
- ◆ 政策立案者、科学者、コミュニティの参加を含め、持続可能な湖沼管理の取り組みにおいて科学と政策の連携を強化するためのツールを作成し、確実に実施する。特筆すべき例として、SDGs に着想を得た、日本の琵琶湖流域の保全と持続可能な管理のための「マザーレイク・ゴールズ」を挙げる。
- ◆ 地域、国、地方レベルにおいて、既存の国連、政府、非政府、研究、地域社会の湖沼関連組織を統合し、相乗効果を拡大するため、評価及び達成可能な目標を持った、長期的で世界的な湖沼の連携組織を設立する。

SLM 決議の実施から得られる利益を向上させるための追加の考慮事項および行動には、次のものを含む。

- ◆ 湖沼およびその他の静水淡水システムの持続可能な管理を妨げている現在の政策の分断を改善するために、湖沼流域管理の権限と責任を最大限に統合し調整する。
- ◆ 湖沼環境の改善の評価・解釈に関して、科学、組織、政策、文化の要素を含み、一貫したガイドラインとプロトコルを開発、実施する。
- ◆ 気候に起因する極端な水災害に対するこれまでの現場での適応経験を考慮に入れ、災害リスク削減 (DRR) 計画とプログラムを策定し、実施する。
- ◆ 湖沼に関連する水文学的に極端な状態、例えば湖沼の水位変動などが、外的要因によって引き起こされる可能性があることを認識し、持続可能な湖沼流域管理の取り組みの発展において考慮する。
- ◆ 湖沼流域管理の生態学的および社会的な利点が、国の開発計画やプログラムで適切に考慮されないことがあるため、湖とそれらの重要な生態系サービスを保護し、劣化したものを回復させる持続可能な湖沼管理の努力は、単なるコストとしてではなく将来にわたる投資と見なすべきである。
- ◆ 統合的湖沼流域管理 (ILBM) の概念は S L M 決議の理念と軌を一にしており、SLM 決議の目標達成を促進する強力なツールとなる。徐々に段階的に長期的に湖沼流域ガバナンスの向上を目指す ILBM は、湖沼に焦点を当てた統合的水資源管理 (IWRM) として位置づけることが出来る。

- ◆ 政策立案者および湖沼流域コミュニティによる持続可能な湖の管理を周知するために、ソーシャルメディア、社会貢献活動、および分野横断的な教育を含むあらゆるレベルでの効果的なアウトリーチとコミュニケーションを促進するための戦略を採用する。
- ◆ 湖沼流域管理の課題に取り組むため、政策立案者、一般市民、関係するすべての湖沼利害関係者による積極的な湖沼管理を強化し、地域、国、地方レベルでの SLM 決議の実施などの活動に対処するため、理解しやすい言葉で、現状と必要な措置に関する定期的な評価報告書を作成する。
- ◆ 湖沼管理の取組において、先住民コミュニティを含むコミュニティのオーナーシップを促進し、彼らのニーズや考慮事項が意思決定プロセスに組み込まれるようにするため、市民科学、あるいは個人やコミュニティの湖沼利害関係者の関与のレベルを促進、強化する。
- ◆ 持続可能な湖沼管理を促進するために、計画、意思決定、実施、評価など、あらゆるレベルで、若者の情熱、エネルギー、ビジョンを動員する。
- ◆ 持続可能な湖沼流域管理の成功事例から得られた証拠に基づく解決策について、研修などを通じ、政策立案者、科学者、NGO、および湖沼コミュニティを含むすべての利害関係者に広く普及させ、他の湖沼流域管理を促進する手段とする。
- ◆ SLM 実施に関連する進行中および予測される EU の水に関連する活動の原理と経験を探求する。これには EU Blue、ESPON Thematic Area Plans および Water Management Functional Areas、および Budapest Water Summits からの勧告が含まれる。
- ◆ SLM 決議とその目的の実施を支援するため、World Lake Fund の開発を含む民間および革新的な資金調達と公共投資を組み合わせ、地方、地域、国、地域レベルで適切な資金を提供する。
- ◆ 湖沼および湿地の大規模な修復と持続可能な管理を資金調達する手段として、the Payment for Ecosystem Services（生態系サービスへの支払い）（PES）アプローチに重点を置く。
- ◆ 氷河湖決壊洪水（GLOF）を、高地湖沼の持続可能な管理に対する新たな課題として認識する。

世界湖沼ビジョンで述べられているように、世界中の経験をふまえ、湖沼とその流域、さらに生態系サービスを持続可能で責任ある方法で利用できれば、清潔で持続可能な淡水資源にかかる人間社会と自然環境の調和し共存していく展望が大きく開かれる。まさに「生命の鍵」となるであろう。